

平成30年度国立特別支援教育総合研究所セミナー

テーマ

**インクルーシブ教育システムの推進**  
—多様な学びの場における研究所のコンテンツ活用—

期 日 平成31年2月15日（金）・16日（土）

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター



独立行政法人

**国立特別支援教育総合研究所**

National Institute of Special Needs Education (NISE)



## 日程及び会場

### 【1日目】カルチャー棟 大ホール

2月15日（金）

- 12:00 - 12:45 第32回辻村賞授賞式
- 13:00 - 13:20 開会式
- 13:30 - 14:00 行政説明
- 14:10 - 17:00 研究所のコンテンツ紹介

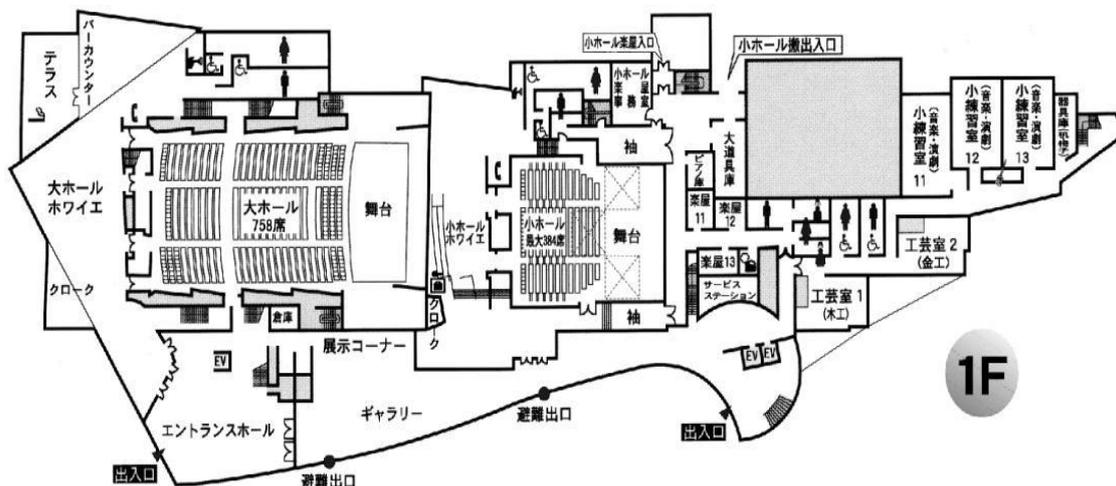
### 【2日目】カルチャー棟 大ホール、カルチャー棟 大ホールホワイエ（展示）\*

2月16日（土）

- 9:30 - 10:40 研究成果報告（基幹研究発表）
- 10:50 - 12:00 研究成果報告（各種研究発表）
- 12:00 - 13:00 休憩
- 13:00 - 14:00 ポスター発表等各種展示（\*）
- 14:10 - 16:10 発達障害に関するシンポジウム

（\*）ポスターは、2日目の9:00から掲示する予定です。

### カルチャー棟構内図



1F

# 目 次

セミナー趣旨-----	1
【1日目】	
開会式-----	2
主催者挨拶 国立特別支援教育総合研究所 理事長 宍戸 和成 文部科学省挨拶 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長 中村 信一 氏	
行政説明-----	2
特別支援教育行政の現状と課題 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長 中村 信一 氏	
研究所のコンテンツ紹介-----	3
教育現場の課題解決に向けた研究活動について－最新の研究成果の紹介 研究企画部 棟方 哲弥・山本 晃	
地域や学校におけるインクルーシブ教育システムの推進に向けた情報提供 インクルーシブ教育システム推進センター 星 祐子	
インターネットによる講義配信及び免許法認定通信教育の紹介 研修事業部 齊藤 由美子・若林 上総・小澤 至賢	
発達障害教育推進センター 「Web サイト及び展示室見学を通じた情報提供と各種事業の開催による理解推進」 発達障害教育推進センター 横山 貢一	
改定した研究所のホームページ及び支援教材ポータルサイトの紹介 情報・支援部 横倉 久	
【2日目】	
研究成果報告-----	7
視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導について インクルーシブ教育システム推進センター 金子 健	
精神疾患及び心身症のある児童生徒への教育的支援・配慮に関する研究 －「心の病気」のある子供への支援(Co-MaMe)の提案－ インクルーシブ教育システム推進センター 土屋 忠之	
通常の学級における多層指導モデル MIM －読みのつまずきの早期把握・早期支援－ 研究企画部 海津 亜希子	
校内における交流及び共同学習の充実 ～多層的な支援システムを手がかりに～ 研修事業部 齊藤 由美子	

ポスター発表等各種展示の概要----- 10

【ポスター発表】

【展示】

- ・「インクル DB」活用体験コーナー
- ・教育支援機器等展示室（iライブラリー）所蔵の教育支援機器等

発達障害に関するシンポジウム----- 12

通級による指導に期待されること ～高等学校における在り方を考える～

司会進行	笹森 洋樹	(国立特別支援教育総合研究所)
シンポジスト	笹谷 幸司 氏	(神奈川県立足柄高等学校長)
シンポジスト	黒田 宗 氏	(和歌山県立有田中央高等学校 教諭)
シンポジスト	綿貫 愛子 氏	(NPO 法人東京都自閉症協会)
シンポジスト	畑 久恵 氏	(保護者)
指定討論者	植木田 潤 氏	(宮城教育大学)



※本セミナーの一部資料につきましては、当研究所ホームページ（研究所セミナーのページ）に掲載しております。それぞれ、左の二次元バーコードを読み取ると、簡単にアクセスできます。（スマートフォン対応）

URL : [http://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/special\\_seminar/h30](http://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/h30)



## セミナー趣旨

### インクルーシブ教育システムの推進

#### －多様な学びの場における研究所のコンテンツ活用－

#### 趣 旨

国立特別支援教育総合研究所（NISE）では、研究活動等の成果普及、特別支援教育に関する理解啓発、教育関係者や関係機関との情報共有を図るため、毎年、本セミナーを開催しています。

本研究所は、第4期中期目標期間（平成28年度～平成32年度）においては、国や地方公共団体等と連携・協力しつつ、特別支援教育を取り巻く国内外の情勢の変化も踏まえた国の政策課題や教育現場の課題に柔軟かつ迅速に対応する業務運営を行い、もって障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育を実現し、インクルーシブ教育システムの構築に向けて貢献することを目指しています。今年度のセミナーでは、研修や専門的な指導、教育現場での実践等、様々な場面で、研究所のコンテンツを活用いただけるようなプログラム（初日）としております。また、今年度の最新の研究成果、当該領域で関心の高い内容に関連した研究成果等についても2日目に紹介いたします。

本セミナーが、参加された皆様にとって、特別支援教育の推進のための実り多い機会となることを期待しております。

理事長 宍戸 和成

## 【1日目】

開会式（13:00～13:20）

### 主催者挨拶

宍戸 和成（国立特別支援教育総合研究所 理事長）

### 文部科学省挨拶

中村 信一 氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長）

行政説明（13:30～14:00）

### 講 師

中村 信一 氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長）

## 研究所のコンテンツ紹介（14:10～17:00）

特別支援教育の推進のための研修や専門的な指導、教育現場での実践等、様々な場面で活用いただくための研究所の各種コンテンツを研究所の研究企画部、インクルーシブ教育システム推進センター、研修事業部、発達障害教育推進センター、情報・支援部から紹介いたします。

### 教育現場の課題解決に向けた研究活動について—最新の研究成果の紹介

研究企画部 棟方 哲弥・山本 晃

研究所では、国の政策立案や教育現場の喫緊の課題の解決に向けた研究を実施しています。研究企画部は、各研究班等の研究計画の立案から成果の評価までを支援する業務を担当しており、本年度は、より一層活用される研究成果を目指した事業を推進しています。

今回のセミナーでは、本年度に実施中の研究の実施状況と期待される成果（アウトプット、そしてアウトカム）について説明するとともに、平成30年3月に終了した研究課題について、報告書、リーフレット、ガイドブックなどから主な研究成果を紹介し、それらを教育現場で活用して頂くためのポイントなどを紹介します。

具体的なテーマとしては、「インクルーシブ教育システム構築に向けた横断的研究」、「教育課程に関する横断的研究」と「各障害種別の指導法や支援に関する研究」、さらには「各種の全国調査の結果」などがあります。また、研究成果は、各障害種の研究会や学術団体の全国大会や学会誌、研究紀要などに発表されており、それらの研究成果についても分かりやすく紹介します。最後に、どのように研究成果を入手すれば良いのかについて具体的に演示を行います。

### 地域や学校におけるインクルーシブ教育システムの推進に向けた情報提供

インクルーシブ教育システム推進センター 星 祐子

平成28年度に開設した「インクルーシブ教育システム推進センター」では、地域や学校が直面する課題に応じた研究の推進、諸外国の最新情報の収集と発信、インクルーシブ教育システム構築を支えるデータベースの整備・情報提供等を行っています。こうした我が国のインクルーシブ教育システム構築の推進に向けた取組についてご紹介します。

#### <地域実践研究の推進>

地域や学校が直面する課題を研究テーマに設定し、その解決を目指して、特総研の研究者と都道府県・市区町村教育委員会より派遣された地域実践研究員が地域と協働して、以下の研究に取り組んでいます。

- ・教育相談、就学先決定に関する研究（1件）

- ・インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究（8件）
- ・多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究（3件）
- ・学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究（2件）

#### <諸外国の最新情報の収集と国際交流>

諸外国の障害のある子どもの教育に関する政策等の最新情報の収集とその提供を行っています。NISE 国際シンポジウムやインクルーシブ教育システム普及セミナー等での情報提供の他、国別調査報告小冊子、特総研ジャーナル等に掲載しています。また、我が国の特別支援教育の取組や研究成果を海外に発信すること、海外の研究機関との研究交流等も進めています。

#### <情報発信・相談支援>

インクル DB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース（※1））は、子どもの実態から、どのような基礎的環境整備や合理的配慮が有効かについて、参考となる事例を紹介しています。幼稚園や小学校、中学校等の先生方にも大いに活用いただけるものと考えています。

※1 <http://inclusive.nise.go.jp/>

### インターネットによる講義配信及び免許法認定通信教育の紹介

研修事業部 齊藤 由美子・若林 上総・小澤 至賢

#### <インターネットによる講義配信>

都道府県・学校等における教職員研修や個人研修等に活用していただけるよう、特別支援教育に関する基礎的内容や障害種別の専門的内容の講義を収録し、特別支援教育研修講座としてインターネットによる講義配信（※2）を行っております。100以上ある講義コンテンツについて、パソコンやタブレット、スマートフォンで視聴可能です。新規のコンテンツとして、新学習指導要領に記載された「通常の学級における各教科等の学びの困難さに応じた指導」に関するプログラムを開発中です。

※2 [http://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/online](http://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online)

#### <免許法認定通信教育>

特別支援学校教諭免許状保有率の向上のため、特に保有率の低い視覚障害教育領域及び聴覚障害教育領域について、インターネットを利用した免許法認定通信教育（※3）を無料で実施しています。開講科目は教職員免許法施行規則における視覚障害教育・聴覚障害教育の各領域の第二欄のうち「教育課程及び指導法に関する科目」及び「心理、生理及び病理に関する科目」の計4科目です。平成28年10月から平成30年9月までの4期にわたり単位認定をした者の数は延べ2,200名を超えています。今後、平成32年度まで、計画的に年2回の開講を行う予定です。

※3 <http://forum.nise.go.jp/tsushin/>

## 発達障害教育推進センター

### 「Web サイト及び展示室見学を通じた情報提供と各種事業の開催による理解推進」

発達障害教育推進センター 横山 貢一

#### <Web サイト及び展示室見学を通じた情報提供>

発達障害教育推進センターの Web サイト（※4）では、発達障害教育に関する最新情報を発信しています。指導・支援、教材・教具や支援機器などのコンテンツがあります。研修講義の動画配信も行っており、You Tube による配信など利用しやすくするための工夫をしております。また、展示室では発達障害に関する理解の促進、適切な対応や支援の充実に目的として、パネル展示や教材・教具等の展示を行っております。心理的疑似体験ができるコーナーもあります。

※4 [http://icedd\\_new.nise.go.jp/](http://icedd_new.nise.go.jp/)

#### <各種事業の開催による理解推進>

発達障害のある子どものライフステージに応じた一貫した支援体制の構築を推進することを目的として発達障害教育実践セミナーを開催しております。教員や指導主事等に対し、発達障害教育に関する理解推進と実践的な指導力の向上を図っています。

また、保護者と関係機関が連携した切れ目のない地域支援体制の構築を推進することを目的として、各自治体と共同で地域理解啓発事業を実施しております。各地域のニーズに応じ、教員、保護者、福祉関係者など、広く一般の方々を対象に、発達障害に関する理解を深める活動を実施しております。

## 改定した研究所のホームページ及び支援教材ポータルサイトの紹介

情報・支援部 横倉 久

#### <改定した研究所のホームページ>

本研究所のホームページ（※5）は今年度大きく改定しました。改定した主な点としては次の3つが挙げられます。1つ目は、トップ画面の内容を整理し、欲しい情報へのアクセスをより容易にできるようにしました。中央に検索窓を設け、関係情報の迅速な収集を可能にしました。2つ目は、「教育関係者」「研究者」「障害者・ご家族・一般利用者」の3つの大きな入り口を色分けして設置し、それぞれのニーズに応じたコンテンツを配置しました。3つ目は、携帯端末からのアクセスにも対応できるデザイン構成にしました。これまで以上に、より多くの方に閲覧していただき、特別支援教育に関する有効な情報普及の一助となることを願っています。

※5 <http://www.nise.go.jp/nc/>

#### <支援教材ポータルサイト>

情報・支援部では、障害のある子供一人一人の状態や特性などに応じた支援機器等教材に関する活用方法や取組事例などの情報ポータルサイト（特別支援教育教材ポータルサイ

ト) (※6) を構築・運営しています。今年度は、文部科学省「学習上の支援機器等教材活用評価研究事業」の成果物である実践例や、実態把握のためのシート、評価指標等を掲載しました。引き続き、研究成果で得られた実践事例や支援機器等教材を掲載し、情報提供に努めていきます。

※6 <http://kyozai.nise.go.jp/>



※「研究所のコンテンツ紹介」に関するスライドは、当研究所ホームページ（研究所セミナーのページ）に掲載しております。それぞれ、左の二次元バーコードを読み取ると、簡単にアクセスできます。（スマートフォン対応）  
URL : [http://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/special\\_seminar/h30](http://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/h30)

## 【2日目】

### 研究成果報告（9:30～12:00）

本セッションでは、本研究所が取り組んでいる基幹研究（障害種別研究）の中から、平成30年度に終了する2つの研究課題の研究成果を報告いたします。また、科研費による研究成果、そして、これまでの研究成果を地域実践研究の中で活用した研究成果も報告いたします。

#### 視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導について

インクルーシブ教育システム推進センター 金子 健

当研究所で実施している基幹研究（障害種別）「視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究—特別支援学校（視覚障害）における指導を中心に—」（平成29年度～平成30年度）では、視覚障害を伴う重複障害の幼児児童生徒の指導について、特に、その視覚活用や触覚活用を取り上げて研究を進めています。ここでは、この研究について、全国の特別支援学校（視覚障害）対象の視覚障害を伴う重複障害の幼児児童生徒に関する実態調査の結果や、視覚活用、触覚活用を図るための実態把握（アセスメント）の方法について報告します。

上記の実態調査に関しては、同校における重複障害の幼児児童生徒の状況として、併せ有する障害の種類、視力の状況等、視覚活用や触覚活用についての実態把握（アセスメント）の状況や、その実施にあたっての課題等について報告します。これらを踏まえて、教育上有用と考えられる視覚活用に関する評価（視機能評価）、触覚に関する評価について、評価の方法、評価の観点等を取り上げて報告します。なお、本研究で得られた知見は、特別支援学校（視覚障害）以外の学校に対しても有用な知見であると考えております。

#### 精神疾患及び心身症のある児童生徒への教育的支援・配慮に関する研究

—「心の病気」のある子供への支援(Co-MaMe)の提案—

インクルーシブ教育システム推進センター 土屋 忠之

精神疾患及び心身症は「心の病気」とも言われています。この病気の中には発達障害の二次的障害や、行動面や適応面の困難等が含まれ、特別支援学校のみならず小・中学校や高等学校等にて支援が必要となっています。「心の病気」のある児童生徒への教育的支援・配慮は、現時点では明確な指針がありません。そこで、これらの児童生徒が多く在籍する特別支援学校（病弱）の教員を対象に研究を行いました。まず予備的研究にて、心理、社会性、学習、身体、学校生活、自己管理等の6領域40項目からなる教育的ニーズを明らか

にし、「アセスメントシート」を開発しました。次いで本研究にて新しい支援・配慮の方法である「多相的多階層支援(Continuous Multiphase and Multistage educational support)」(以下、Co-MaMe)を開発しました。「Co-MaMe」は教育的ニーズ 40 項目及び、病状の 3 つの段階(受容期、試行期、安定期)により支援・配慮を変化させる方法です。今回の内容は、特別支援学校及び小・中学校、高等学校等、多くの学校にて活用できるようにガイドブックとして発行する予定です。

#### 通常の学級における多層指導モデル MIM —読みのつまずきの早期把握・早期支援—

研究企画部 海津 亜希子

MIM(ミム)は、Multilayer Instruction Modelの略で、多層指導モデルという意味です。MIMでは通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していきます。特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことをめざしています。具体的には3層構造から成り、1stステージでは、通常の授業の中で、質の高い、科学的根拠に基づいた指導を全ての子どもに対して実施します。2ndステージでは、1stステージによる効果的な指導を受けても伸びが十分でない子どもに対し、通常の学級内での補足的な指導を行います。3rdステージでは、それでも伸びが乏しい子どもに対し、より個に特化した集中的な指導を実施していきます。なお、こうしたニーズは、定期的なアセスメント(MIM-Progress Monitoring [MIM-PM; ミム・ピーエム]というプログレス・モニタリング)の結果をもとに客観的に判断していきます。MIMを学力向上施策の一環として導入する地域も全国で20を超え、更に広がりをみせています。また、10年以上に及ぶ研究知見の蓄積が根拠となり、小学校1年生の国語の教科書にもMIMの指導法の一部が採用されています。当日はMIMの理論的背景や実践の様子、その効果や課題について紹介します。

#### 校内における交流及び共同学習の充実 ～多層的な支援システムを手がかりに～

研修事業部 齊藤 由美子

交流及び共同学習は、共生社会の形成に向けた重要な教育施策です。2017年の文部科学省調査によると、特別支援学級を設置する小・中学校のほとんどで校内における交流及び共同学習が実施されています。しかしながら、その実践については教員の手探りで行われている現状があり、教育課程の連続性に欠ける場合や、障害の形式的な理解にとどまっている場合が多いという指摘もあります。

ここでは、より質の高い交流及び共同学習の実践をめざして、「相互のふれ合いを通じて豊かな人間性を育む」とともに「教科等のねらいの達成」をめざす交流及び共同学習の在り方を提案します。まず、校内の交流及び共同学習の基礎となる環境整備として、米国を中心に取り組まれている「学校全体で取り組む多層的な支援システム(Multi-Tiered

System of Supports (MTSS)」の概念を説明し、その支援システムの中で、現在小・中学校で推進されている「学習のユニバーサルデザイン」や「合理的配慮」を位置づけます。さらに、上記の考え方を踏まえ、小学校において交流及び共同学習の授業づくりに校内研究として取り組んだ事例を紹介し、そのプロセスと成果について共有します。



※「研究成果報告」に関するスライドデータは、公開可能なものに限り、当研究所ホームページ（研究所セミナーのページ）に掲載しております。左の二次元バーコードを読み取ると、簡単にアクセスできます。（スマートフォン対応）

URL : [http://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/special\\_seminar/h30](http://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/h30)

## ポスター発表等各種展示（13:00～14:00）

### <趣旨>

本研究所の障害別研究の成果発表や実践発表を、ポスター展示及び参加者との質疑応答により行います。下記の内容について、パネル・資料・教材等の展示により紹介するとともに、直接、本研究所の担当者が説明します。

### 【ポスター発表】

研究班	テーマ
視覚班	特別支援学校（視覚障害）在籍の重複障害幼児児童生徒に関する実態調査（平成 29・30 年度基幹研究）
聴覚班	聴覚障害教育におけるセンター的機能充実に関する調査研究（平成 29 年度予備的研究）
知的班	インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較 ～フィンランド、スウェーデンと日本の比較から～（平成 28・29 年度共同研究）
肢体不自由班	多様な学びの場に在籍する肢体不自由のある児童生徒の指導・支援の在り方 ～特別支援学校の専門性を活用した小・中学校等への支援～（平成 28 年度予備的研究）
病弱班	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究－Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）－（平成 29・30 年度基幹研究）
言語班	「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実際的研究－言語障害教育の専門性の活用－（平成 27・28 年度基幹研究）
自閉症班	自閉症のある子どもの指導目標のつながりを意識した授業実践－長期目標の達成に向けた段階的な目標設定と児童の興味・関心を重視した授業実践－（平成 28・29 年度基幹研究）
発達・情緒班	発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の在り方に関する研究－導入段階における課題の検討－（平成 28・29 年度基幹研究）
重複班	特別支援学校における盲ろう幼児児童生徒の実態調査報告（平成 29・30 年度年次基礎調査）

### 【展示】

#### ・「インクル DB」活用体験コーナー

インクル DB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）は、子どもの実態から、どのような基礎的環境整備や合理的配慮が有効かについて、参考になる事例を紹介しています。また、研修会での事例検討にも活用できます。今回は、パソコンやタブレット型端末を使用して、インクル DB の活用を体験できるコーナーを設けました。

・教育支援機器等展示室（iライブラリー）所蔵の教育支援機器等

研究所の教育支援機器等展示室（iライブラリー）所蔵の教材・教具や教育支援機器を展示します。実際に触れたり、操作したりする体験ができます。それらを通じて、子ども達の学習や生活の指導に活かせる情報を提供します。



※「ポスター発表」に関するポスターの電子データは、当研究所ホームページ（研究所セミナーのページ）に掲載しております。左の二次元バーコードを読み取ると、簡単にアクセスできます。（スマートフォン対応）

URL : [http://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/special\\_seminar/h30](http://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/h30)

## 発達障害に関するシンポジウム

「通級による指導に期待されること ～高等学校における在り方を考える～」

(14:10～16:10)

<趣旨>

「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（報告）」（平成 28 年 3 月）を受け、平成 30 年 4 月より通級による指導の制度が高等学校においても開始されました。これまで多様化する生徒や学校の実態に応じて、課程や学科、学校設定科目・教科などの教育制度を設けて対応してきた高等学校教育において、初めて障害など特別な教育的ニーズのある生徒に対する特別の指導が認められることとなります。同報告では、「通級による指導の導入は、障害のある生徒を特別な場に追いやるものであってはならない（中略）一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、障害による学習上又は生活上の困難を改善又は克服するための適切な指導及び必要な支援を行うという特別支援教育の基本理念を改めて認識し、障害のある生徒の在籍する全ての高等学校において、特別支援教育が一層推進されることを期待する。」と述べられています。

小・中学校に準じた制度になるが、単位による履修・修得により卒業認定する教育課程の編成や全日制・定時制・通信制という課程や学科など、小・中学校とは異なる点も多いです。生徒の自尊感情や自己理解、二次的な障害の予防という視点も重要であり、生徒の気持ちを日常的に受け止め、心理面、情緒面の対応ができる場としての役割も期待されます。

本シンポジウムでは、高等学校における通級による指導に期待することについて、それぞれの立場からご発言いただき、今後の在り方について考える機会とします。

司会進行	笹森 洋樹	(国立特別支援教育総合研究所)
シンポジスト	笹谷 幸司氏	(神奈川県立足柄高等学校長)
シンポジスト	黒田 宗氏	(和歌山県立有田中央高等学校 教諭)
シンポジスト	綿貫 愛子氏	(NPO 法人東京都自閉症協会)
シンポジスト	畑 久恵氏	(保護者)
指定討論者	植木田 潤氏	(宮城教育大学)



※「発達障害に関するシンポジウム」に関するスライドデータは、司会進行によるシンポジウムの概要説明に限り、当研究所ホームページ（研究所セミナーのページ）に掲載しております。なお、シンポジストの方々のスライドデータは公開しておりませんので予めご了承ください。左の二次元バーコードを読み取ると、簡単にアクセスできます。（スマートフォン対応）

URL : [http://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/special\\_seminar/h30](http://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/h30)

---

平成30年度国立特別支援教育総合研究所セミナー要項

平成31年2月 発行

---

発行者 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585

神奈川県横須賀市野比5丁目1番1号

電話 046-839-6803

FAX 046-839-6918

URL <http://www.nise.go.jp/nc/>

---